

2009年7月13日

国際協力機構

COP10に向けた最近の動き

1 国際会議等

(1) CBD 援助機関専門家会合（5月13～15日 モントリオール）

- 討議事項：SEA, Payment for Ecosystem Service, Biodiversity Main Streaming, Donor Alliance (Paris Declaration), ABS
- 参加機関：GTZ, AFD, FINNIDA, DFID, USAID, JICA, GEF, UNDP, WB, (ベニン、タンザニア、インドネシア)

(2) GMS(Great Mekong Subregion) Core Environment Program WG（7月2～3日 バンコク）

- 討議事項：SEA, Payment for Ecosystem Service, REDD
- 参加機関：GMS members, ADB, Finland, Sweden, JICA, Winrock International (USAID finance)

2 関連事業の進捗状況

<研修>

- 平成22年度里山研修新規設置の内部承認（UNU、金沢大学、石川県を想定）
- 補正予算エコツーリズム研修

<企業連携>

- ベトナム小規模 AR-CDM 事業の CDM 理事会承認（ホンダベトナムの CSR）
- パラオサンゴ礁モニタリングプロジェクト開始（JFE スティールによるサンゴ再生技術の協力）

<能力向上>

- マレーシアボルネオ生物多様性保全プログラム2（ABS、Local Knowledge）
- インドネシア生物多様性保全のための国立公園機能・人材強化プロジェクト／ベトナムビズップヌイバ国立公園管理計画
- コンゴ河流域諸国熱帯雨林保全研修

<科学技術 ODA>

- ガボン野生生物と人間の共生を通じた熱帯林の生物多様性保全（京都大学）
- インドネシア泥炭湿地林における火災と炭素管理（北海道大学）
- フィリピン沿岸生態系の多重環境気候変動適応策（東工大学）
- ブラジルアマゾン熱帯雨林における炭素動態（森林総研）

<財政支援>

- ベトナム／フィリピン／タイ気候変動プログラムローン形成

以上